

まつぼっくり



宇城市立三角小学校
学校だより 第60号
文責 校長 西村羊治
令和7年12月11日

学校教育目標「支え合い・学び合い、多様な達成感を体感し、ふるさとを愛する児童の育成」

大研（だいけん）

10日（水）5時間目、3年担任の山下玲於奈教諭が研究授業に取り組みました。「大研」とは「大（だい）研究授業」の略です。学校文化の造語だと思いますが、校内で「中研」とか「小研」など分類することがあります。「大研」と言えば、基本全教員がその授業の参観と事前事後の研究会をする形が一般的です。

学校教育法第37条に、「教諭は、児童の教育をつかさどる。」とあります。また、教育公務員特例法第21条には、「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない。」とあります。教員の使命は、自分自身の授業力を高め、日々目の前にいる子どもたちに授業を通して教育していかなければならないのです。

熊本の教職員像は、

～「認め、ほめ、励まし、伸ばす」くまもとの教職員～

です。

1 教職員としての基本的資質は、
①教育的愛情と人権感覚 ②使命感と向上心 ③組織の一員としての自覚
2 教職員としての専門性は、
①児童生徒理解と豊かな心の育成 ②学習の実践的指導力
③保護者、地域住民との連携

となっています。

このような法律や規定などがあり、それに則って各学校の教職員は教育公務員として使命を果たしていかなければなりません。ですから日々の研究と修養を継続していかなければならないのです。その経験を通して授業力や指導力の向上を図り、児童生徒一人一人にわかりやすい授業をしていかなければならないのです。しかし、そう簡単には身に付きません。経験と時間が必要です。

今回、その一環として3年生算数の分数の学習を、山下玲於奈教諭が挑戦したわけです。立腰とあいさつから始まり、「四角い食パンを3等分できるかな。」と投げかけ、授業が始まりました。子どもたちはとても意欲的です。算数が苦手な子も一生懸命でした。○△□（丸、三角、四角）の図形に線を引いて自分なりの3等分をしていました。この授業のために山下教諭は数週間前から授業の教材研究をして構想案をつくり、当日は夜中の2：00に目が覚めて授業のこと考えていたとのことでした。子どもたちとの信頼関係ばっちり、子どもと山下教諭の頑張りがたくさん見られた授業でした。事後の研究会でもほとんどの教諭が発言し、充実した授業研究会となりました。

今後も、三角小学校の子どもも職員も「命」を守り「成長」していきます。

授業の様子



事後の研究会

